

# 平成28年度小松島市事務事業評価シート

■事業の位置づけ（基本事項）				<b>整理番号</b>	6 - 1 - 18
<b>事務事業名</b>	健康診査等助成事業（人間ドック・脳ドック）			<b>担当課係</b>	保険年金課 国保担当
<b>総合計画上の位置付け</b>	<b>大項目</b>	2. 「安心」のまちづくり		<b>記入担当者</b>	
	<b>中項目</b>	②頼りにできる医療環境		<b>内線等</b>	
	<b>小項目</b>	2. 健全で円滑な医療保険制度の運営		<b>E-mail</b>	
<b>事業の実施主体</b>	市（委託・補助事業含む）			<b>事業区分</b>	経常事業
<b>事業予算費目</b>	<b>款</b>	8 保健事業費	<b>項</b>	2 保健事業費	
	<b>目</b>	2 疾病予防費	<b>事業</b>	3 健康診査等助成事業	
<b>開始年度</b>	平成 9	<b>年度</b>	根拠法令・要綱等	小松島市国民健康保険における健康診査（人間ドック）受診助成事業実施要綱、小松島市国民健康保険における健康診査（脳ドック）受診助成事業実施要綱	

<b>事業の対象</b>	（誰の、何のために事業を実施するのか） 小松島市国民健康保険の被保険者で、40歳以上で保険料の滞納がない者。
<b>事業の目的</b> （意図）	（事業実施によってどういう状態にしたいのか） 疾病の早期発見・早期治療による、医療費適正化を目的として人間ドック及び脳ドック助成事業を行う。
<b>事業の内容</b> （内容・手法等）	（こういった仕事の内容で、どのような手法・手順で実施しているか） 40歳以上の被保険者が市契約医療機関で受診する人間ドック及び脳ドックについて、その検査費用の一部を助成する。（人間ドック、市助成額27,300円(内特定健診分5,000円)、自己負担額11,700円 脳ドック、市助成額20,860円(内特定健診分5,000円)、自己負担額8,940円、人間・脳統合ドック、市助成額40,320円(内特定健診分5,000円)、自己負担額17,280円）
<b>事業の背景</b> （経緯等）	（事業開始の背景やこれまでの経緯） 早期発見・早期治療を目的として、健康保険が適用されない人間ドック及び脳ドックの費用に対し助成することにより、経済的負担を軽減するため平成9年度から設けた制度である。

## ■事務事業の業績・推移（目標・実績）

成果指標	指標名			指標の説明				指標化できない成果
	人間ドック・脳ドックの受診者数			人間ドック・脳ドックの受診者数				
	単位	H27	H28	H29	H30	目標年度	目標値	
人	目標	320	320				医療費適正化に対する効果	
	実績	272	291					
	達成度	85.0%	90.9%					

  

活動実績・参考となる指標	指標名	単位		H27	H28	H29	H30	指標の説明
	人間ドック（件数）		件	計画	190	190		
実績				149	180			
脳ドック（件数）		件	計画	100	100			
			実績	93	81			
人間・脳統合ドック（件数）		件	計画	30	30			
			実績	30	30			
			計画					
			実績					

## ■事務事業に係るコストの業績（目標・実績）

（単位：円）

		27年度決算	28年度決算	28年度予算	29年度予算		
全体コスト（円）	関連事業費	A 直接事業費	5,710,660	6,131,640	7,321,000	7,309,000	
		財源内訳	国庫支出金				
			地方債				
			利用者負担				
			一般財源	5,710,660	6,131,640		
	B 人件費 ①×②	604,682	599,644				
	職員平均人件費①	6,046,821	5,996,435				
	従事した割合②/人	0.10	0.10				
	A + B	6,315,342	6,731,284				
	単位コスト	活動指標の説明	年間平均被保険者数 9,479人	年間平均被保険者数 9,230人		<b>備考</b>	
活動指標1単位当たりコスト		666	729		平成27年4月1日現在 人口39,866人		
市民一人あたりのコスト		158	171		平成28年4月1日現在 人口39,358人		

■事業を取り巻く環境

国・県・他団体の動向や環境変化と今後の予測	(社会状況、法改正、規制緩和、周辺の状況等や今後の予測) 本市では、被保険者のうち40歳以上の方を対象とし、助成割合を保険給付にあわせ7割としているが、自治体によって年齢制限や助成割合等に相違がある。
事業に対する住民の意見	(意識調査・議会質疑等、事業に対する期待・要望・苦情など) 申し込み方法についての意見や徳島赤十字病院での胃カメラの受診人数を増やしてほしいなどの要望がある。

■項目別評価・今後の課題

評価項目	評価結果 (該当にチェック)	判断理由・評価コメント (具体的に記入すること)
必要性 (市民ニーズ)	<input type="radio"/> ① 必要性が高い	疾病の早期発見・早期治療を行うため、健診費用を助成する事業であり、必要性は高いと考えられる。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば必要性がある	
	<input type="radio"/> ③ 必要性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 必要性がない	
妥当性 (市で行わなければならないか)	<input type="radio"/> ① 市が行わないといけない	費用助成による事業であり、保険税の納付状況も確認することから、市が行わなければならない事業である。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば市で実施	
	<input type="radio"/> ③ 必然性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 必然性がない	
効率性 (事業の手法は効率よいが、コスト削減の余地はないか)	<input type="radio"/> ① 効率的である	人間ドック及び脳ドックの健診単価は、小松島市医師会、小松島病院及び徳島赤十字病院と協議の上決定しており、費用の7割を助成しているため、経費の削減は困難である。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば効率的	
	<input type="radio"/> ③ どちらかといえば非効率的	
	<input type="radio"/> ④ 非効率的	
緊急性 (他事業に優先し、実施する必要があるか)	<input type="radio"/> ① 緊急性が高い	人間ドックは、胃部検査などがん検診の検査項目も含まれており、特定健康診査の検査項目より詳細な検査を実施するため、被保険者の疾病の発症や重症化の予防につながる。
	<input type="radio"/> ② 比較的緊急性がある	
	<input type="radio"/> ③ 緊急性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 緊急性はない	
成果 (目的の達成状況)	<input type="radio"/> ① 成果が上がっている	事業実施により、被保険者の健康保持、増進に寄与するとともに被保険者自身の健康に対する関心が深められたと考える。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば上がっている	
	<input type="radio"/> ③ どちらかといえば上がっていない	
	<input type="radio"/> ④ 成果は上がっていない	
今後の課題	人間ドックについては、胃カメラでの受診希望が多いが、医療機関の受け入れの都合もあり、必ずしも全てに応じられない現状である。	

■一次評価 (評価点は目安とし、総合的な評価をすること)

評価	事務事業の方向性	1 拡 充 す る		80 点 以上		評価点による判定	判定に至った理由
		2 現状のまま継続する		60～79点			
2	3 改善・効率化し継続		40～59点		評価点	79	疾病の早期発見、早期予防のための事業で、中長期的な視点では医療費適正化にも繋がる重要な事業と考える。
	4 終期設定し終了		20～39点		2		
	5 完了・休止・廃止		19点以下				

■改善・効率化の方向性 ※一次評価の判定が3の時は、必ず記入すること。

【具体的な改善等取組内容 (方向性・対象・手段等について記述)】
----------------------------------

■二次評価 (所管担当の一次評価を、総合評価し判定すること)

評価	事務事業の方向性	1 拡 充 す る		判定説明	
		2 現状のまま継続する			80 点 以上
2	3 改善・効率化し継続		60～79点		人間ドック受診による疾病の早期発見・早期治療は、受診者の健康保持や医療費適正化にも効果があることから、被保険者のニーズに応えることのできる事業となるよう関係機関と協議、検討しながら実施していく必要がある。
	4 終期設定し終了		40～59点		
	5 完了・休止・廃止		20～39点		